

レポートの書き方について

I 形式

- レポートは word もしくは一太郎で作成し、添付ファイルで送ること。
- レポートの形式は以下のようにする。

○月○日日本教育史レポート
教育勅語の歴史的意味について
■■学部 ○野△子
.....
.....
.....
.....
.....

II 構想

- タイトルが与えられているときでもその範囲で自分の書きたい主題を見つける。
- レポートの構成を考える。
如何に読者をおもしろがらせるか

III 書くときの注意

- 根拠のない展開はしてはいけない。
 1. 出典を明らかにする。何に書いてあったか。出典は巻末にあげる。
 2. 文章中に他の文献から引用するときには、注をつけて番号を振り、巻末に列挙する。
 3. 写真や画像も同様である。
- 引用してよいもの
 - ①出版されている図書
 - ②雑誌記事
 - ③学術論文（学会誌、大学紀要、学術雑誌）
- ホームページ、ブログなどからの転載はもちろん、引用は基本的にダメ
 - 理由①責任と信頼の不在
 - 理由②内容が浅い
- web 上のもので引用してよいもの
 - ①公的機関などが公開している資料
 - ②編集責任の確かな史資料集
 - ③PDF 化された論文
 - ④デジタルアーカイブに収録された文献、史料



- ⑤その他引用するに足る質のもの
- とは言え引用してはいけないもの
 - ①質の低い論文
 - ②著作権が開放されていない写真、図画など

- 二. 引用することと、剽窃をすることとはちがう。
 - ※引用；他者の文言ないしデータを引き、その上に自分の見解を述べる。
 - ※剽窃；他者の文言ないしデータを自分の見解のごとく記述する。
 - ※剽窃まがい；他者の文言ないしデータを引くが、自分の見解は書かない。
- 以下の例を参考にして注意しよう



原文

生徒が修身教科書を通じて様々な徳目、様々な有徳的言行を限りなく学ぶことには、生徒の道徳的感覚を鈍らす危険がありさうに考へられる。断えず道徳の話聞いてみると道徳に対する新鮮な感情を失ふ恐れがある。それどころではない。教へ方によつては生徒の反抗心を挑発することさへもありうる。
 天野貞祐『道理の感覚』岩波書店 1937

引用例①

天野貞祐は「生徒が修身教科書を通じて様々な徳目、様々な有徳的言行を限りなく学ぶことには、生徒の道徳的感覚を鈍らす危険がありさうに考へられる」と言い、相違ことが繰り返されるならば道徳に対して「新鮮な感情を失ふ恐れ」や「生徒の反抗心を挑発する」という問題が生じると『道理の感覚』に於いて論じた。このことは現代の道徳や人権教育の場面においても通じるものを持っているのではないだろうか。だいたい人権の授業の時にわざと居眠りをする学生が多いのはその証であろう。

天野貞祐の文章を引用し、いったん相対化した上で持論を展開している。



引用例②

生徒の道徳学習について、天野貞祐は「断えず道徳の話聞いてみると道徳に対する新鮮な感情を失ふ恐れがある。それどころではない。教へ方によつては生徒の反抗心を挑発することさへもありうる」と述べている。道徳教育には注意が必要だ。

天野貞祐の見解をそのまま無批判に引用しており、自分の考察が欠落している。よくない。

引用例③

生徒が道徳教科書を通じてさまざまな徳目、さまざまな有徳的言行を限りなく学ぶことには、生徒の道徳的感覚を鈍らせる危険があるように思われる。断えず道徳の話聞いてると道徳に対する新鮮な感情を失う恐れがある。それどころではない。教え方によっては生徒の反抗心を挑発することさえあるかもしれない。

ほぼ天野貞祐の文章をそのまま自分の意見として書いている。これは剽窃であり、犯罪だ。

引用例④

生徒が教科書によって様々な道徳的価値について学ぶと、生徒の道徳的感覚を鈍らす危険があると思う。いつも道徳の話聞かされると道徳に対して鈍感になったり、時には反抗心を持つようになる。

天野貞祐の主張をあたかも自分の意見であるかのように書いている。剽窃の疑い濃厚。